

平成 30 年度 出雲医療看護専門学校

第 2 回教育課程編成委員会議事録

日 時：平成 30 年 12 月 1 日(土) 13:00～14:30

場 所：出雲医療看護専門学校 1F101 教室

教育課程編成委員出席者：

- 秦美恵子 【看護】 (島根県看護協会 会長)
- 糸賀修也 【臨床工学技士】 (島根大学医学部附属病院 ME センター 副センター長) 、
- 福田淳 【理学療法士】 (ディサービスサイン マネージャー)、
- 廣江正幸 【言語聴覚士】 (山陰言語聴覚士協会 理事)、
- 今岡副学校長 松井教務部長 小田原学科長 高田学科長
- 新井学科長 門脇学科長 落合副学科長 坂田副学科長
- 加藤副学科長 野津専任教員 笠原次長 阿守課長

欠席者：神田真理子 【看護】 (島根大学医学部附属病院 副病院長、看護部長)、
 太田真英 【理学療法士】 (島根県理学療法士会会長)
 福田勇司 【臨床工学技士】 (島根臨床工学技士会 会長)、
 藤江美穂 【言語聴覚士】 (出雲市立総合医療センター ST リハビリ技術科主任)
 橋本学校長、片寄教育顧問

進 行：松井 書 記：阿守

議題	内 容	発議者
1. 開会		松井
2. 副学校長挨拶	あいさつ	今岡
3. 議事 ①各学科より現状報告 ②教育課程に関する意見交換	<p>【平成 30 年教育活動実績】 *別紙参照</p> <p>①</p> <p>1) 学内教育活動報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入学式⇒最初の授業としての位置づけ ・卒業式⇒最後の授業としての位置づけ ・就職フェア⇒中国地域を中心に 70 数施設が参加 ・今日教職員研修の実施 ・学園祭⇒学生中心に実施し、地域から出店あり ・語彙読解力検定⇒国試を見据えた取組み ・卒業研究発表会⇒学科選考発表 → 学内選考発表 ・J E S C 学会⇒学園教職員対象 <p>2) 地域連携報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交通安全運動への参加 ・地域イベントへの参加 ・出雲市消防団に学生が参加 <p>3) 業界連携報告</p> <ul style="list-style-type: none"> ・臨地、臨床実習 ・4 職種職能団体合同イベント実施⇒地域の方を対象 <p><振り返り></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員の研究発表が少なかった ・地域連携⇒学生が自主的に動くようになった ・業界連携が乏しい⇒連携した教育活動が必要 <p>②特になし</p>	松井

<p>【看護学科】</p> <p>①別紙参照</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・4 学科合同の交流の具体的な考えは？ ・ペーパーペイシエントを用いて4 学科の視点のケア計画の多角的な視点の検討会。4 学科のある学校のメリットを活かしたい。 ・臨床工学技士学科は？ ・コミュニケーション能力低い。ホームルームを使った学科との交流を検討 ・理学療法士学科は？ ・指定規則の改訂に伴い薬理・病理が加わる。症例を通したディスカッションを4 学科で行いたい ・業界の動向から見た学科設置のメリットは？ ・病院中心の看護職から人口構造の変化から病院完結から地域完結へと変わる。既に訪問についてはリハビリとの連携はあることから、学生のうちから学べることは有意義であると考え ・今後看護学科として、カリキュラム変更に伴う今後の取組みを検討していることは？ ・知識だけではなくコミュニケーション能力向上が必要。その為には学内では限界がある。例えば地域の方に模擬患者になっていただく方法もある。他校では、家庭訪問を行い地域の方の暮らしの理解をする取組みをされている。 	<p>小田原</p> <p>松井 小田原</p> <p>松井 新井</p> <p>松井 高田</p> <p>松井 秦会長</p> <p>松井</p> <p>小田原</p>
<p>【理学療法士学科】</p> <p>①別紙参照</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な取組みは？ ・実習要綱の見直しを始めている。カリキュラム改正に伴う学科としての柱が課題。 ・報告に対してどうか？ ・実習についてはどの学校も検討されている。実習地の実習指導者も特別なカリキュラムを経てからあたるよう通達がきている。2月から4~5回全国的な研修が実施すると案内もきている。島根県から10数名認定課程を受ける予定。実習指導のスキルと質は向上する。学校としての+αが必要。 ・各施設ごとに認定を取得する予定？ ・協会から言われていること。現場では取得してもメリットは現時点ではない。学校側の取組みが大事になる。他、県がどう促すかがポイントになる。構造的に取得する方向に進むと考えられる。 ・学科としては？ ・各都道府県で養成施設の指導が必要になり、1年目80名2年間160名あり、2年間で県内がカバーできるのか？病院だけではなく福祉施設も対象になることとなりカバーができるのか？対処者が全て集まるのか？が問題。スムーズに移行できる様に準備する。また、実習前後の評価になる為学校としての基準をしっかりと設ける。 ・カリキュラム改正とは別に現時点での教育内容、教育方法への活用で具体的に考えていることは何か？ ・学科の問題として挙がっているのが、コミュニケーションと生活習慣がある。主体性・生活習慣の改善をやっていくことが必要と考えている。 ・カリキュラムに落とし込んでいるのか？ ・コミュニケーションについては外部にこれまでお願いをして 	<p>松井 高田</p> <p>松井 福田氏</p> <p>松井 福田氏</p> <p>松井 高田</p> <p>松井 高田</p> <p>今岡</p> <p>高田</p> <p>松井 高田</p>

6. 意見交換	<p>ただ、今年度より言語聴覚士学科の教員に変更し教員全体で取り組むように行っている。</p> <p>【臨床工学技士学科】</p> <p>①別紙参照</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実習先との連携が不十分とあるが具体的には？ ・実習に際して成績だけになり、性格・体調などの学生データが欲しいとの意見がある。 ・コミュニケーション能力向上についてその他は？ ・専門分野の授業が2年生から入るが、外部から招き入れを増やしコミュニケーションの場を増やすことを検討している ・その他は？ ・4階のフロアに臨床工学技士学科と言語聴覚士学科が同じフロアにいながら挨拶もない。まずは挨拶からできる取組みをしたいと考えている ・朝の挨拶運動は効果がない？ ・少しコミュニケーションは取りにくい。他、他学科と違い実習時間が短いことも考えられる。学生同士とその他の方とのコミュニケーションは地学のでは？と指摘もある。 ・レポート作成の講義を行うとあるが期間は？ ・2週間に1回、計10回で考えている ・どの学科にも関係するが、言語聴覚士学科の学生をみられていかがか？ ・書けないポイントが分からないのでは？書くところ見つけられていないケースと見つけても上手く文章にできないケースがあり指導するポイントが変わる。語彙読解力検定があるが全学科されているのか？ ・全学科している ・読み解く力になると思うが書く力は何か取り組んでいるんか？ ・キャリア教育委員会で学習サポートセンターで国語の時間を作っている。読む書く力を養うことは行っている。考える力はあるが文章に落とし込むことが難しい。 ・自分の思うコミュニケーションと学生の思うコミュニケーションが違う。今、出雲医療看護専門学校の卒業生がいるが入職時は覚えていないが今は問題はない。 <p>今の学生はSNSなど文字対文字の会話になっており、人対人との話す機会が減っているようで、それが普通と感じている感がある。高齢者との会話などは特に相手のことを理解することが必要になる。採用する側はコミュニケーション能力が高いほうが良い。</p> <p>【言語聴覚士学科】</p> <p>①別紙参照</p> <p>②</p> <ul style="list-style-type: none"> ・追加はありますか？ ・現場の声と教員の感じていることが共通している。言語聴覚士はコミュニケーション障がいをお持ちの方を支援する仕事の為コミュニケーション能力を上げることが課題と再認識した。あいさつ運動をやっても校舎内ではなかなかできていない。咄嗟に声を掛けられるようにならなくてはならないが、少しずつ進歩はしている。 ・実習中は挨拶しませんか？ ・そんなことはないが、なかなか出来ない学生もいる。皆がで 	<p>新井</p> <p>松井 新井</p> <p>松井 新井</p> <p>松井 加藤</p> <p>松井 新井</p> <p>松井 新井</p> <p>廣江氏</p> <p>松井 廣江氏</p> <p>坂田</p> <p>糸賀氏</p> <p>門脇</p> <p>松井 野津</p> <p>松井 廣江氏</p>
---------	--	---

4. 閉会挨拶	<p>きるようになると良い。挨拶から始まる為、病院・施設もいろんな方もおられ、ご家族・患者様も職員の雰囲気が変わる為非常に大切なことである。</p> <p>多くの対策をされているが新たな対策は何か？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今年度初めて行ったのは、清音会の方にお越しいただき音声障害の授業の中でコミュニケーションを行った。実習前指導を目的とコマ数を明確にし整理を行った 挨拶運動も今年度から行った ・限られた時間の中でこれだけたくさんのことが可能なのか？ ・本当に限られた時間の中で学生が疲弊しない様に行っている。 ・コミュニケーションに関する講義を外部から招いてやられているのか？ ・看護学科は授業の中にコミュニケーションの時間が 10 時間ほどあり、専任教員がおこなっている。患者とのやりとりが上手できないと支障をきたすので実習前に教員が指導を行う。他に特別な授業はおこなっていない。 ・理学療法士学科はマナー講座を行っている。学生としっかり向き合う様にしている ・授業の中にはコミュニケーションはなく、人間関係論・心理学など座学のみでコミュニケーションという内容の授業はない。 ・学生のコミュニケーション力の求められているものはそれほど高くはない。ビジネスコーチングで自分の意見をどう伝え肯定するかで苦手な方でも話を進める方法もある。 <p>専門職種ではないところから学ぶと入りやすいこともある。コミュニケーションだけを切り取るなら外部から専門的な学びを入れることも良いのでは？</p>	<p>門脇</p> <p>廣江氏 門脇</p> <p>福田氏</p> <p>小田原</p> <p>高田</p> <p>新井</p> <p>福田氏</p>
	<p>【今後について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2回の議事については今年中にホームページにアップし県に提出する。これにより職業専門実践課程について必要となる要件は揃う。 ・次年度について、今年度よりフォローアップの手続きが必要になった。10月に書類提出をすることになり、それまでに2回この場をもたなければならない。その為には、9月には2回目を終えておかなければならない。逆算すると9月の初旬には実施が必須。そうすると1回目をどの時期にするか？を検討しなければならない。委員の皆様いかがでしょうか？ <p>*全委員可能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後日日程を調整させていただく。 	<p>松井</p> <p>松井</p>